

おんじゅく

10

昭和53年10月

第181号

千葉県御宿町役場



アカプルコを中心 オルスス海岸



友好の旅いま終えて



メキシコ訪問報告

友好使節団長 金井英一郎

一昨年の昭和五十一年九月、松崎、相場、新井、井上、岩瀬、植村、加藤、高松、松本、三上、水谷、柳君等十一名の商工会青年部の諸君が民間使節団を組みメキシコに向った。その成果はビックリするほど大きなものであった。アカブルコ市長に迎えられ、大統領に面接し、消えかけていた御宿とメキシコ三百七十年前の史実を鮮明に印象づけてきた。もちろんこのことには仲介の労をとった人がいた。メキシコ市在住の東信行氏とその恩師にあたる茂原市在住の井桁二郎氏である。いま昭和五十三年、オレア駐日メキシコ大使のあつせんで岩井町長、岩崎議長が訪墨し、世界有数の大観光都市アカブルコと姉妹都市の締結が実現し、またメキシコの口ベス大統領が来日の折に特に御宿を訪問されることが決定した。二百七十年前の史実を知らない人たちにとっては全く信じられないような話であろう。あらためて一昨年の十一人の青年たちのメキシコ行きが快挙であったことを思わざるを得ない。今回そのなかの一員であった三上昶男君が、もう一度メキシコへ行くとうと提唱して九人の商工会青年部員が参加した。私は五十七才、すでに青年ではないが、迎えられて団長として行を共にした。今回の使節団のメキシコ行について、冊をはじめ各方面からいろいろと高配をいただいたことを感謝し、旅行メモを発表して報告に力えます。

アカブルコ市長フィゲロア氏(左から五人目)を囲んで
記念撮影をした友好使節のメンバー。

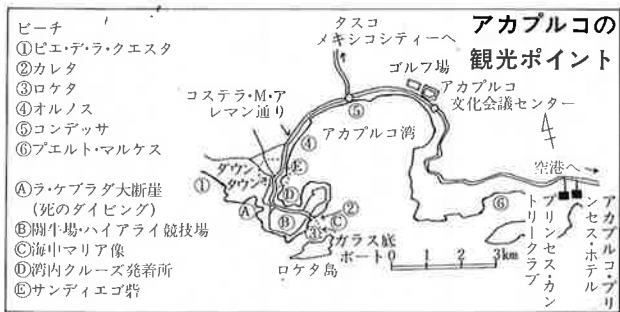
(左から新井、加藤、三上、金井、フィゲロア市長、岩
淵、松崎、松本、松下、吉野、木村)

九月七日(木)

成田空港十九・二〇発日本航空
○六四便ロサンジェルス経由、
メキシコ航空九〇五便に乗換えメ
キシコシティ着二一・五〇。

日附変更線を通過したためまだ九月七日。長い長い一日である。

東信行氏、政府観光省の女子職員と共に迎えてくれる。このため入国審査その他面倒な関所は全部フリーパス。宿舎、エル・プレシデンテ・チャプルテベック・ホテルに二二・三〇着。早速東氏を



交え明日からのスケジュール検討。就寝〇〇・三〇。

九月八日(金)

午前中時差による睡眠不足カバーのための休養。昼食後スケジュールにつき全員ミーティング。团长としての希望も副える。

「日本人の海外旅行にはあまり芳しくないパターンがある。観光屋さんに連れられて、なからなまでに集団で歩きまわり、そのため群衆心理で傍若無人、横柄尊大、マナー失格、ともかく鼻もちならぬ。そのくせ仲間からはぐれたりすると、一人歩きが出来ず、肩を

息をのむ “カリブのブルー”

九月九日(土)

「カリブのブルー」と呼ばれるこの海の青さはどうだ。これは石灰の粉のような、気の遠くなるように、真白な砂のせいだと気がついた。海が澄んでいるから海が青は神秘的にエメラルドの青になる。この海の青、砂の白を文章で表現することは不可能だ。カラーフィルムでも表現できはしない。油絵ならばなんとか出せるかも知

すばめ、泣きペソをかき、お手上げとなる。これは世界に有名な話でまことに恥ずかしい話だ。団体の尻にくっついてまわった海外旅行など何回どこへ行こうと、いっこうに自分の身につきはしない。年配の人の海外旅行はほとんどこれだからダメ。まったく価値の低い旅行というべきだろう。みんな若くてバイタリテイにあふれているのだから、フリーのときにはできるだけ仲間から離れてひとりで行動することをすすめる。片言でもいいから英語、スペイン語の単語で、そして手まねものまねで外人と接することだ。タクシージャカ

りに乗らず、ひとりバスに乗り地下鉄に乗ってみよう。そうしてこそその国の人のくらし、人情に触れることができる。バイタリテイで挑戦してほしい。今回の旅行で大きな収穫をつかみとってほしい。

夕方一九・〇〇メキシコシティ発MX六一三便でカンクンへ飛ぶ。カンクンはメキシコ東南部ユカタン半島のカリブ海側にあり、政府が力を入れて開発し、脚光を浴びているビーチ・リゾートである。飛行時間一時間四十分、二〇・四五カンクン着。ホテル・カルセル泊。

れない。つまり、カリブの海は絵のように美しい。サンゴ礁にかこまれた小さな島イスラ・ムヘレスへ船を走らせる。ここは「女の島」という別名がある。十九世紀のころ海賊たちが出勤するときこの島に女たちがかくし住まわせておいたというのでこの名がある。コロンブスのアメリカ大陸発見の記念像が建っている。大地をしっかりと踏まえ、右手をふりかざした堂々たる勇姿

である。ともかくこの島周辺の海は水はエメラルドの青、砂は純白、そこに美しい色彩の魚群が群をなして泳ぎまわり、大亀が遊泳する。島に上陸し、終日カリブ海の青と白のなかに染まる。いまカリブの真只中にある。感動的である。カンクンへの帰り、ボートから擬餌鉤をつけたテグスを流しただけで大きなスズキを釣りあげる。ホテルに持ちかえると、早速松

友好使節団メンバー

团长	金井英一郎
副团长	松崎 啓二
事務局長	松本 捷二
(町観光課長)	三上 昶男
団員	加藤 長
"	松下 弘秀
"	木村三津男
"	新井 明
"	吉野 和美
"	岩淵 昌幸

九月十日(日)

朝、カンクン飛行場へ。われわれの乗るそれであろう双発飛行機がテストをしている。プロペラの右側が回転が小さい。ブルルンブルルンと右プロペラが左に同調せず、みんな大丈夫かなあと心配顔。

そんなプロペラ機で、無事コスメル島へ。コスメルはカリブ海の真只中に浮かぶ美しい島で、カンクンの開発とともに最近脚光を浴びてきた新しい海洋レジャー基地である。このコスメルの浜からモーターボートに乗り、「ロビンソン



30分で30尾もとれたロビン
ソングルーソーの航海

クルーソーの航海」と名づける舟旅に出発する。ボートは、ひたすら沖に走りつづける。見わたすかぎりカリブ海の神秘的なブルーの世界。一時間ほどしてはつきりとどす黒く色の変わった磯根の上にエンジンをとめる。水中銃を手にした若者がザンブと海にとびこみ海中に姿を消す。アクアラングを背負っているが十分も出てこない。心配していると、やがて浮びあがってきた彼の手から、綱に通した色とりどりの大きな魚三十尾ばかりが、魔法のようにボートにひきあげられる。まったくビックリさせられる。松下君に聞くとハタの一種だという。

ボートは再びひた走り、夢のように美しい無人島に着く。

魚を焼き、食い、椰子の実の水を飲み、泳いだり、寝ころんだり



無人島で過したすばらしい一日

一日中遊び呆ける。文明と隔離したすばらしい一日。

夕方例の気をもませるプロペラ機でカンクンへ戻る。無事でした。

九月十一日(月)

カンクン一〇・〇五MX六一四

メキシコ大統領の来訪日程

メキシコ大統領は十一月一日(水)午前九時十分、ヘリコプターで岩和田新漁港に着きます。

メキシコ記念公園にてメキシコ塔除幕式、メキシコホテルにて歓迎レセプションを行い、九時五十分、ヘリコプターで大多喜町にむかいます。

歓迎の準備にあたり、町民の皆様になにかと迷惑をおかけすることと思いますが、御協力をお願いします。

スケジュール

11月1日(水)

午前9時10分 ヘリ御到着、新港ヘリポート

午前9時18分 メキシコ記念公園着、御品贈呈、勲章授与、メッセ交歓。

午前9時33分 メキシコホテル着、歓迎レセプション。

午前9時45分 同ホテル発。

午前9時50分 ヘリポート着。

午前9時55分 ヘリ出発。

便メキシコシティ行。ここでAM四〇五便に乗換えアカプルコ着は一三・三五。

宿舎は海岸の中心地にあるリゾートホテル、パライス・マリオット。市長表敬訪問の手はずは、先にアカプルコに乗りこんでいる東信行氏によって、すべて整えられている。

夕方五・三〇小高い丘に建つ市庁舎に市長訪問。市長のフエブロニオ・ディアス・フィゲロア氏、両手を挙げて愛想よくわれわれを迎えてくれる。

「アカプルコは世界中の有名な観光都市五つか六つと姉妹都市を結んでいる。しかし最も意義の深いのはオンジュクとの姉妹都市締

結です。この両者の関係は遠く一六〇九年に始まっている。

当時日本国に立ち寄った船は、乗組員はすべて斬られ積荷は奪われた。そんな歴史的な背景のなかで、オンジュクの人たちはそうしなかつた。遭難したわれわれの先祖を救助し、温かく保護してくれた。我等はその事実を永久に忘れない。

日本国から贈られた漁業指導船にロベス大統領はオンジュク丸と名づけた。それはその史実に思いを馳せたからである。

オンジュクはアカプルコにどって最も意義の深い姉妹都市です。市長は雄弁であった。東氏を通じてに欲談一時間。一同上気して表



アカプルコのコンデッサ海岸はホテル街

九月十二日(火)

ファイゲロア市長が我々一行の楽しい一日のために自分のヨットを提供しようとか、いろいろと心配してくれるが、遊びのことまで迷惑をかけてはと丁重にお断りして各自フリーとする。

アカプルコには遊びきれないほど各種水上レジャーが発達している。特に水上スキーとパラセーリングはアカプルコが発祥地である。パラセーリングとは、モーターボートでパラシュートをひっぱる

と、それは空中高く舞い上り、バラシュートを背負った客は豪快な空の散歩を楽しむことができる。

この他ヨット、モーターボート、湾内遊覧船、スキндаイビング、トローリング、それにゴルフ、テニス、ハイアライ、レンタカーと至れり尽くせりのレジャーが完璧に用意されている。まさに海の楽園である。

みんな思い思いに目ざす遊びに散ってしまつて、どこへ行つたか行方も知れぬ。結構、結構。フリーを宣言したのだから、こうでなくてはならぬ。

体長2・7mの大カジキ釣る

松本、木村、吉野君のグループはトローリングに出かけ、体長二メートル七〇の大カジキを獲物に凱旋してきた。特に頼んでホテルの調理場に運びこみ、解体する。松下君の包丁が活躍し、みごとにアカブルコ版磯料理が完成する。



大カジキを解体する木村さん



アカブルコの中心部・コンデッサ海岸

私と新井君はもっぱらパラセーリングと水上スキー志向。両方も満喫、すばらしい一日である。

夜は私の部屋で磯料理パーティ。ホテルのコック長を招待する。人品骨柄堂々たる貫録のコック長、オサシミははじめてとか。馴れぬ手つきで割箸をにぎり、キッコーマン醬油にピチャピチャつけて、「うまい、うまいスバラシイデス」。

九月十三日(水)

今日もフリーデイとする。みんな思い思いのレジャー。私と新井君は今日も水上スキーに熱中。まだ十八才だという陽気なメキシコ娘二人とトモダチになり終日いっ

しよ。ゴキゲンな一日でした。

夜はワイゲロア市長の招待で、ラ・ケブラタのホテル・ミラドルで「死のダイビング・ショウ」を見ながらの夕食。市から秘書課長、公安課長の二氏同席。アカブルコ市の観光行政その他を聞いた。二・三〇現地解散とする。自由

にホテルに帰るように。ところがみんなアカブルコの夜を満喫、ホテルへ帰ったのは夜明けの三時、四時だったとか。夜半の三時位まで飲んでさわぐのはメキシコではあたり前のことなので

九月十四日(木)

朝〇八・〇〇アカブルコ発。貸切バスでメキシコシティへ四百三十キロの旅。途中中世紀そのままの姿を残す銀の町タスコで昼食、大多喜と姉妹都市を結んだ保養地クエルナバカ市に立ち寄り、二〇・三〇メキシコシティ着。エル・プレシデンテ・チャブルテペック・ホテル泊。まったく長い名前のややこしい言い方のホテルだ。

九月十五日(金)

朝一〇・〇〇ホテルを出て大統領



歓呼に応えるロベス大統領

「ビバ・メヒコ！」と大群衆。広場は大統領と大群衆の歓声の渦のなかにある。色紙の紙フブキとメリケン粉をつめたタマゴのカラの弾丸がとんでくる。やがてタマゴのカラの弾丸はメチャクチャに飛び交いはじめ。そして戦争のよう

にメチャクチャ

づける。

夜は建国祭の前夜祭である。

夜二三・〇〇大統領は官邸の窓を開け、眼下のソカロ広場を埋めた大群衆に直面する。左手で鐘を乱打し、右手に国旗を打振り、大群衆に呼びかける。これは革命独立のときの故事にならった演出である。

「メヒカーノ(メキシコ人よ)と呼びかける大統領。

「ビバ・メヒコ！」(メキシコ万歳)と答える大群衆。

「建国の英雄を讃えよう」と大統領。

やな花火が夜空を焦がす。メキシコ人たちは前夜祭の昂奮のうずのなかにひしめき、陶酔している。

九月十六日(土)

建国祭パレード。最も場所が良いと言われるホテル・マリア・イサベラ前の路上に位置をしめ十時から待つ。パレードは十一時から始まった。果てしないさまざまな軍隊のパレード。民衆は軍隊に紙ぶきとテープを投げつける。女子軍のパレードが現れると大喜び。ラ・ラ・ラ・ビン・ボン・バ



愛きょうをふりまく少女騎馬隊

朝、メキシコに着いたばかりのマリキータ(NHKスピークン語講座担当、歌手)が訪ねてくる。御宿の海びらき以来の対面である。今日は貸切バスでメキシコシティの市内観光という日程で一日。三〇出発。どろぼう市、マリア・グアダルーベ寺院、テ

九月十七日(日)

マリキータとの再会

ン。メキシコオリンピックのときに耳にこびりついたあのメキシコ人の大合唱だ。そして少年少女の騎馬隊にもひとときわ高い、ラ・ラ・ラ・ビン・ボン・バン。

一四・三〇パレード終了。一五・三〇闘牛場ブラサ・メヒコに行き闘牛見物。数万人の見物客の熱狂。オーレ・オーレのかけ声。この日

九頭の闘牛があえなく闘牛士の華かな刃にたおれる。楽士団のもの悲しく荘重な葬送曲。

夜、東信行氏宅に全員招待を受ける。一家あげての日本料理の接待。

この人のわれわれに対する面倒みの良さには何と言ったらよいか。感謝のきわみである。

オティワカンの遺跡、日暮会館で日本食と定石通りの観光コースをたどり、ホテル帰着は一八・〇〇夜はフリー。

九月十八日(月)

今日はショッピング・デイ。貸切バスで市内の有名店をまわる。みんな思い思いに土産の買い込み。まる一日かかる。

九月十九日(火)

メキシコシティ空港一〇・三〇発、日本航空〇一一便。

九月二十日(水)

日付変更線を通過するので、一日損をして九月二十日となる。(日本とメキシコとの時差十五時間)

一八・〇〇成田空港着。楽しかった十四日間、あっという間に終りである。

附記 1

「メキシコ国」のあらまし

日本がアジアのエースであるように、メキシコはブラジルとならんで中南米のエースである。農業国から工業国への道をひた走っている。石油、鉄、銅、ニッケル、綿花などが主産品だが、特に石油は中東に匹敵する豊富な埋蔵量をもつことが確認され、この国の将来はバラ色に輝いている。

御宿へ帰る貸切マイクロバスのなか、「お金をためて、また行くかな」の声。

%、国語はスペイン語である。通貨はペソ。円高のおかげで昨年十五円だったのに今は十円を割っている。日本人旅行者は断然トク。

所得、最高学府メキシコ大学卒初任給が十二十三万円。

亜熱帯に属するから、海岸の平地は日射しが強く一年中夏。クエルナバカは標高一五二〇メートル一年中二〇度位、常春の保養地である。メキシコシティは標高二二四〇メートル、富士山の五合目位。気温は十二度から十八度。四〇〇メートル以上の山が九つ、ポポカテペトル山は五四一七メートル一年中雪をいただく最高峰。

ちなみに首都メキシコシティは人口一四〇〇万人、世界一の大都市。

観光事業も大きな比率を占めていて、レベルの高い開発計画が目白押しである。

ロベス大統領の正式な呼称。エル・セニョール・プレシデンテ・ホセ・ロベス・ポルティエロ EL SR. PRESIDENTE JOSE LOPEZ PORTILLO

国民性は一般に陽気で客好き。お祭り好き、そしてアメリカよりも日本が好き。

日本の五・五倍の広さで人口は六千五百万人。先住民族のインディオが二〇%、スペイン系三〇%。両者の混血メスティーソが六〇

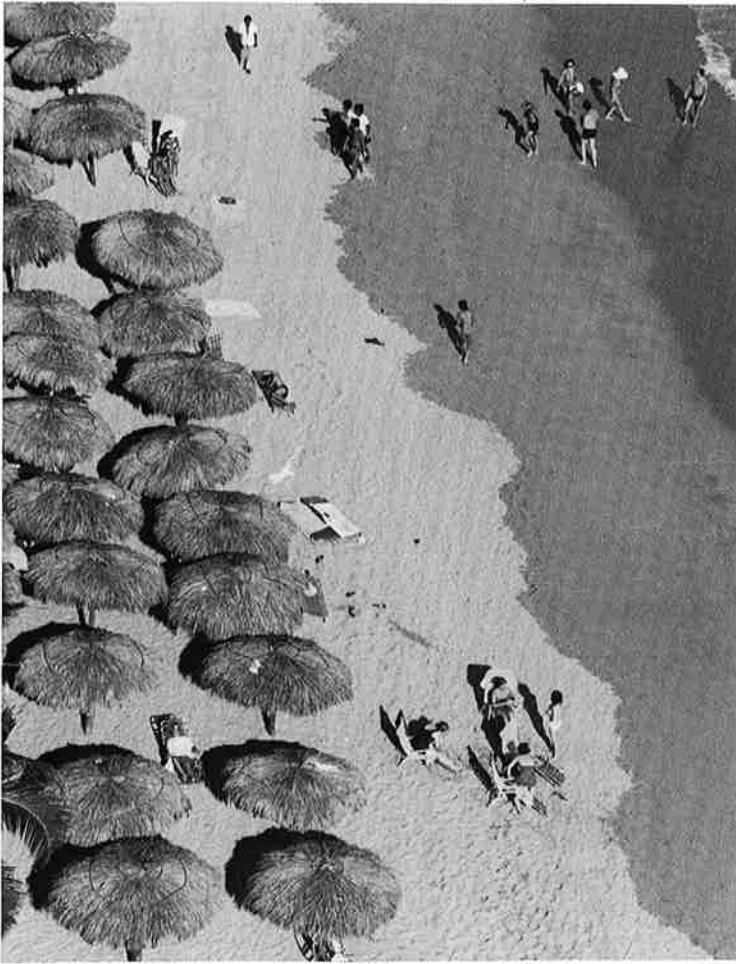
「アカプルコ市」
のあらまし

メキシコの太平洋岸、首都メキシコ市の南約四百三十キロ、車で六時間、飛行機で四十五分、国際空港をもつ常夏の国際的リゾートとして世界にその名を知られている。

アカプルコの明るい太陽はまばゆいばかり。雨やくもり日が稀で台風は無く、空気は乾燥し、海から涼しい貿易風がソヨソヨと吹いている。

一年中できる海水浴

青い海、美しくひろがる白い砂浜、海にせまる緑の山容は風光明媚で、一年中海水浴、水上スポーツが楽しめる常夏の楽園である。人口は市の秘書課長に聞いた所六十六万人。これは海岸線(間口)六十キロ、陸地(奥行)へ四十キロの大アカプルコ市圏の人口ですと、公安課長がつけ加えた。



ヤシの葉でふいた笠型の日除けはアカプルコのシンボル。台風などないから一年中これでOK。

案内書によれば、人口五十万、四十五万、三十万とまちまちである。政府観光審議会の資料によれば一九七〇年(八年前)調査で十九万人とある。最近の急激な人口増に調査が追いつかないといった状況か。

フィゲロア市長曰く。
「オンジュクの皆さんの何人が

がアカプルコ市に定住して、日本の優れた最新式の漁業技術を指導してくれたら、アカプルコ市の人口はすぐに百万を越えてしまうだろう。」

(多分に社会辞令のあることをお含み下さい)

アカプルコでの楽しみは実に多彩である。水上スキーとパラセーリングはアカプルコが生んだ二大レジャースポーツである。パラシ

ュートをモーターボートでひっぱり、客は大空高く舞い上り、豪快な空中散歩を楽しむパラセーリングの快適さはこの上無いものだ。

完璧無比の観光施設

海水浴はもちろんのこと、スキングダイビング、アクアリングを使う本格的なスクーバダイビング、マグロ、カジキなど大型遊魚をねらうトロリーング、なんでも揃っ

ている。このほかゴルフ、テニス、乗馬の陸上レジャー。闘牛、死のダイビング、ハイアライ等の国際級見せ物。はたまた夜の観光など完璧に揃っていて、すべて適正値段、文句なし。

ビーチは大小合せて四〇、このうち有名なビーチは六つ。朝が良いならモーニングビーチ、午後が良いとか夕焼け頃が良いとか、トロリーングの海だとかサーフィンに向くとか、パラセーリング、水上スキーの本拠地だとか、アカプルコ道は使い分けて楽しむ。

観光客に二つの「自由」

アカプルコでの観光客は二つの自由、つまり徹底的になにもしないで海辺にくつろぐ自由と、積極的に心ゆくまで水上レジャーを楽しむ自由をもっている。いずれにしてもお仕着せの名所旧跡見物型ではない。自分がプレイして楽しむ観光——新しい最も進歩した観光の形態がここにある。

アカプルコ市長の正式な呼称。
フェブрониオ・ディアス・フィゲロア

FEBRONIO DIAS FIGUEROW
PRESIDENTE MUNICIPAL DE
ACAPULCO GRO.

マンション問題とその経過

条件付きで和解へ

これを機に都市計画の検討急ぐ

中央海水浴場入口に建設しようとする分譲別荘マンションをめぐる、町と朋栄企業とが取り交した「約定書」を名義変更によって無視し、三井農林と東海興業が工事を強行しました。

町はこれを不当行為として、建築中止の仮処分を千葉地裁一宮支部に申請し、公正な場で話し合いを進めてきましたが、裁判官のあつせんで当初計画の十四階を十二階にすることと、建設により被害

が発生した場合は三井農林及び東海興業が責任を持って解決に当たることを条件として和解が成立しました。このマンションは当初建築を計画した朋栄企業と町は、町の指導要綱の趣旨に従い

一、朋栄企業は町が指定した区域内に居住した土地建物を所有しまたは使用するものの書面による同意を得、この書面を町に提出した上で建築に着手する。(以下略)

このような内容を盛り込んだ約定書が取り交されました。従って朋栄企業は住民の同意を得られなまま建築を断念しました。ところが五十三年四月に至り朋

栄企業は建築主としての権利を別の業者である三井農林に譲ってしまいました。

権利譲渡を受けた三井農林は、町と朋栄企業との約定書を一切無視して工事を強行したため工事中止の申請をしていたものです。

このように町は町の方針に従ってこの問題に対処してきましたが一方住民は住民の立場から、自発的に反対運動を行い強く建設業者に反省を求めてきました。

この間裁判所に於て八回に亘り

事情聴取、話し合い等がありましたが、裁判官のあつせんで結局十四階を十二階にすること、住民への被害補償に責任を持つこと等の話し合いがまとまり、和解となりました。

このため、指導要綱等についても検討を加え、指導致案等についても検討を加え、共に町の全体的な土地利用計画のため都市計画を実施するよう、検討を進めていくことになりました。

(1) 水道使用料

基本料金1ヵ月につき		超過料金 1㎡増すごとに
使用水量	料金	
8㎡まで	800円	100円

(2) メーター使用量

口径(m/㎡)	13	20	25	30	40	50
1ヵ月につき	60円	120円	130円	190円	230円	1,140円

※ 使用例

(イ) 口径20m/㎡で12㎡使用の場合の料金

基本料金+超過料金+メーター使用料=1ヵ月分の料金
800円 + 400円 + 120円 = 1,320円

(ロ) 口径20m/㎡で8㎡以下の使用の場合の料金

基本料金+メーター使用料=1ヵ月の料金
800円 + 120円 = 920円

水道料金などきまる

十月十五日(日)より水道使用料等が有料となりました。七月下旬より、加入者の皆様方の御協力のもとに試験通水を行いました。九月二十七日より「飲めます」というお知らせを申し上げました。十月十五日(日)から、水道使用料及びメーター使用料が有料となりました。料金は上表のとおりです。



おめでた

九月	男5	女3	計8
区名	出生児	性別	保護者
須賀	貝塚	史子	女 徳夫
須賀	泉	佳男	男 哲男
久保	浅野	裕子	女 進
久保	岩瀬	ゆかり	女 恒夫
六軒町	江沢	裕介	男 重一
六軒町	田中	茂	男 政行
岩和田	早川	智弘	男 松男
上布施	石井	誠治	男 誠
九月	男4	女3	計7
おくやみ			

人口	
(9月末現在)	
	前月比
男女計	3,922
世帯数	4,473
	8,395
	2,336
	4

発行・千葉県御宿町

発行責任者・岩井 敏夫

編集者・氏原 憲二